

2026年度 東京都立大学大学院 人間健康科学研究科
博士前期課程 入学試験問題（夏季） 作業療法科学域 小論文の出題意図

問1は、

問1. 図の解説を下記の書き出しに続けて、それぞれ4行以上でまとめなさい。

1～4の解説では、図中に記載されたリスクファクターについての解釈とあなたの知ることも含めてまとめなさい。（目安として、4行程度が適切です）

図から情報を正確に深く読み取り、それらを解釈する能力に関する設問である。

世の中の関心が大変高い認知症に関する課題である。認知症のリスクファクターについて、図から1. 人生早期 2. 人生中期 3. 人生後期 の情報を的確に読み取り、まとめる能力を問うた。各ステージで明示された一つ一つのリスクファクターに関する知識やリスクファクターをまとめて理解する力を試した。さらに、4. 総合的にみると、では、1～3で総じて考えられる結果・考察だけではなく、最新の認知症のリスク予防において、図から読み取れるリスクファクターに関する予防（約50%）をするだけでは、十分な予防ではないことも理解し、言及できるかどうかについて読解の力を問うた。所定の分量における論理的記述の能力評価も含む。

問2. 図を参考に、認知症予防を実践する上で、人生のステージを考慮した支援の具体的な内容と想定される実施上の課題について、多角的な観点から500字以内で述べなさい。（目安として、450～500字程度が適切です）

本図を総合的にみて、認知症予防への支援において、どのような立場から、従来はあまり取り組まれてこなかった人生のさまざまなステージという生涯発達の視点を入れた支援を考案できるかどうかを問うた。保健医療に関する知識を動員しさらには生涯発達の支援の困難さを理解し、表出できる力を問うものである。所定の分量における論理的記述の能力評価も含む。

問3. 保健、医療、福祉、教育の現場のうち、いずれか1つの現場で、下線部の内容と合致するあなたの体験を500字以内でまとめなさい。その体験での「うしろめたさ」の起動や公平さについても、わかりやすく説明しなさい。（目安として、450～500字程度が適切です）

筆者が述べるように、知らないうちに目を背け、いろんな理由をつけて不均衡を正当化していることに自覚的になることが必要な場面も保健医療の現場においても多く生じている。そのため、回答者が体験をし、正当化しているだろう不均衡について、何が不均衡を生じさせているのか、公平性とは何かについて、5つの現場のうち、回答者が体験した内容を1つ分析し、それを説明する力を問うている。なお、社会心理学ではごみ問題や違法駐車による救急車の通行妨害など社会的ジレンマとしても取り上げられることがある。回答者が体験をどのように不均衡と認識したのか、それこそが「うしろめたさ」を起動させたことなどだという自覚も含めて、論理的に説明できるかどうかを問うている。所定の分量における論理的記述の能力評価も含む。